

豊明希望チャペル礼拝

2026/3/1

『主の教えに驚嘆(きょうたん)し』

使徒 13 : 1~12

以前に、「アンテオケ宣教会」という、海外宣教の団体があるとお話したことがあります。現在の総主事の大田先生が、同じ寮に住んでいて、私がいた頃に救われてクリスチャンとなったこともお話したことがあります。ちなみに、彼はアマチュアボクシングの選手だったと思います。



今日の箇所は、そのイスラエルの北に位置するアンテオケから、アンテオケの教会から、はじめての本格的な海外宣教が始まった日の、その記録であります。

今日の箇所では、この働きにバルナバとパウロ(サウロ)と、マルコが指名されて遣わされる場面、最初の宣教地、地中海のキプロス島に渡って、魔術師のバルイエス、あるいはエルマという、パウロらの宣教の邪魔をする人間と会って、そこで起きたことを通して、そのキプロス島のローマ総督が救われてクリスチャンとなってしまいますという、そういう場面となります。(地図の青線が、パウロのいわゆる第一回伝道旅行と言われる、その地図です・・)



今日の箇所は、今、見ましたように、海外宣教の根拠というか象徴となるような箇所として、たとえばイギリスから始まった世界に宣教を拡大した救世軍の、リッドレー監督が、家族が常に暗唱していた箇所であるとか、そもそもルカが、この使徒の働きを書いたルカが、救われるきっかけとなったのは、ここで魔術師

からクリスチャンとなって伝道者となったエルマによるとか・・・とにかく、内容もさることながら、この「海外宣教」あるいは、異邦人伝道の教會的はじまりという意味で重要な箇所であるということになるかと思えます。

ここで少し、先週、牧師の研修会のことについてお話したいと思います。

今回は、アメリカのカリフォルニアから来られた韓国系の牧師にお話しいただきました。(右は、栄聖書教會の全牧師、左が、シン・スンファン牧師)



私は、お名前をお聞きするのもはじめてでしたので、集会の始まりに、インターネットで調べておりました。先生のお名前を検索したら、いきなり有名な、ロサンゼルスタイムズの記事が冒頭に出てまいりまして、先生の牧会される教会がロサンゼルスで有名なボクシングアリーナを買ったこと、そのタイトルが、「ボクシングアリーナから礼拝堂へ」という非常の興味深いものでした。



1 回目の講演が終わったとき、別の韓国の宣教師のパク先生に、その旨、お訪ねしたら、先生は、ロッキーという映画をご存じですか？と聞かれました。シルベスタースタローンのロッキーですね。カルフォルニアのあの丘にマラソンし、試合に勝利して、エイドリアン！と叫んだ、あのロッキーですねと思いました。先生は、そうです。そのボクシングアリーナの、そのモデル(撮影場所?)となった場所ですと教えて下さいました。最後の講演の後に、その辺の事情についてお話いただけますかと、シン先生にお願いして、先生は、本当は話すつもりはなかったがと、むしろ、私は、教会は会堂ではなく、人である、出来れば、会堂は取得しなくても、教会は始められる始まるのだと断った上で、なぜ、この場所を取得するようになったかを、このよ

うにお話しされました。

ビジネスマンであった先生は 30 歳で献身され、カルフォルニアにあった 10 人ほどの教会の牧師となった。次々と人が集まってきて、狭くなってきて、8 年間で 6 回も引越しなければならなかった。しかし、それは単に人数が増えたからではないと言います。アメリカは移民の国、文化が違う、借りたところが、飲食禁止で、さらに礼拝



が終わったら全部、元の状態に戻さなければならない、週 3 回の集会のたびにそれをする。これはダメだとなって、必要額の 7 割を銀行に借りて、大きな建物を買った。アメリカでは教育施設は、すべてに優先して建てられるという法律があって、その建物が、その教育施設の候補にあがった。かかった費用の一部を払うから出て行けと言われた・・教会員の教育関係の者がいて、あれは、宗教施設、しかも、韓国人の移民ということで、国の言うことを聞けと言う見せしめになったと語られたと言う。結果、900 万ドルの建物は 600 万ドルで国に買い取られてしまった。不当だと裁判を起したが、敗訴。教会員は、きっともっと良いものを主が用意して下さっているのですから感謝しましょうと言われた。ついに最後に与えられたのが今の建物ですと語られました(いかにもスポーツ会場の客席と照明)。

パク宣教師は、私の耳元で、シン牧師は、あちらで、キリスト狂いの牧師と呼ばれて有名なんだと私にそつと、語られました。先生は、身内への証しのことをいくつか語られました。自分の父親には、キリストを信じる事を拒否された。私も私の子供たち、すなわち、あなたも孫もみんなクリスチャンとなった。特に父は孫達が可愛くて、私に会いたくなくても、

たびたび家に来た。そこである時、あなたは、死んだらどこに行くのかと聞いた。あなたは、クリスチャンでないから、天国では私にも孫にも会えないよと言った。ついにクリスチャンとなったと。妻の父親に福音を伝えたとき、ついには、私にその話をするなど言われた。こんな食事の時に、家族団らんの時に、場の空気が悪くなると言われた。使徒の働き(16:31)に、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」このことをかたくなに信じた。また、テモテの手紙(Ⅱテモテ4:2)に時が良くても悪くても伝えよとあったので、いうなれば、空気も読まずに、伝え続けた。私が伝道しないなら、その人を地獄に落とすことになる・・・そんな思いで伝え続けた・・・そう語られました。

私に出来るかなあと思いながら聞いていました。

先生は、さかんに、聖書を開き、特に、この使徒の働きを開かれました。そして、そこから解説をするより先に、まずは、一緒に朗読しましょうと、私は、パウロらのことを思い出していました。解説はいらぬ、御言葉を信じよ・・・それが先生の流儀だと、考え方だと良くわかりました。

さて、先生も、先生にとっては法律も習慣も違う、異国の地であり、アメリカといえども、その宣教の対象は、ほとんどが異教徒です。会堂もない、歓迎もされない、いわば開拓の地で、まさに、この使徒の働き、同時に聖霊行伝と言われる、神の働きの記録である、この使徒の働きと同じ体験だと感じたのです。

長くなりましたが、先に少し触れたように、まずは、パウロら選ばれてアンテオケ教会から遣わされる場面を見ましょう。



「13:1 さて、アンティオキアには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの預言者や教師がいた。13:2 彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が「さあ、わたしのためにバルナバとサウロを聖別して、わたしが召した働きに就かせなさい」と言われた。13:3 そこで彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いてから送り出した。13:4 二人は聖霊によって送り出され、セレウキアに下り、そこからキプロスに向けて船出し、13:5 サラミスに着くとユダヤ人の諸会堂で神のこゝばを宣べ伝えた。彼らはヨハネも助手として連れていた。」

ルカは、アンティオキア、アンテオケ、その教会には、パウロと伝道旅行に同行するバルナバ、サウロ(パウロ)の他にも、特に3人の人を紹介します。その中で、注目を引く人がいます。領主ヘロデの乳兄弟マナエンです。あのユダヤの王ヘロデの兄弟、乳兄弟ですから、血縁関係はないけれど、少なくとも王の近くにいた人間も、アンテオケ教会にはいたようです。すでにアンテオケ教会は、力をつけ、シン牧師の話聞いたとき、教会予算の3割を海外宣教にあてているとお話しされましたが、アンテオケ教会が、そのような使命を早くから与えられていたことに感銘を受けます。私たち

も、小さな教会ではありますが、世界宣教のために祈る教会でありたいと願います。

2人の宣教師は、助手として、ヨハネを連れていたとルカは報告します。ヨハネは、マルコとも呼ばれた、ペテロが牢屋から解放されたとき、ペテロの解放を願って祈禱会をしていたマリアの家の息子です。

「12:12 それが分かったので、ペテロは、マルコと呼ばれているヨハネの母マリアの家に行った。そこには多くの人々が集まって、祈っていた。」

先の話しになりますが、バルナバとパウロが、二人三脚で遣わされた宣教でしたが、この後、バルナバとパウロの意見の違いで、行動を別にするることになります。そのきっかけとなったのは、このマルコです。パウロは、いわば伝道の心構えに欠けると言うことで、彼を助手とする事に反対します。バルナバは、マルコを、いわば育てようとして、パウロと対立するわけです。

ルカは、この伝道者達の交わりの脆弱さ、弱さを隠そうとしません。マルコの弱さがあり、パウロのかたくなさがそこには見えます。後には、マルコ・ヨハネは、パウロにとってかけがいのない同労者となります。

また、ここでパウロが、正式に教師として大きな役割が与えられたのは、彼が、エルサレム教会の不審により、故郷のタルソに帰らされてから、12年がたっていたと考えられます。年齢とすれば推定44歳ほどです。パウロの弱さと言うことではありませんが、それまで、この働きには、必要とされなかったという言い方も出来るかも知れません。

もともと、モーセが出エジプトの召命を受けたのは、80歳です。

年齢という点に焦点を当てて、私たちの召命、神に召されること、それは、伝道者としてという事に限らず、神さまから、かくあれ、こうせよと、それが、家族伝道であれ、広くは、主の召しによって、この職につけと言われるようなことがあるかもしれないというような事も含めて、主の召しをいただくのに、遅すぎると言うことは無いし、逆にそんなに待たされたのはなぜと思う事もある。私たちは、そういう意味では、いつ召されても、御言葉を読むとき、祈る時、神さまの召命を、「はい従います」の信仰を持って、備えなければならないということでもあると思います。

イエス様は、30歳まで大工をされ、30歳で召された。パウロは44歳、モーセは80歳。いつでもあるということです。

さて、召命を受けてそれに応えて宣教に出たパウロと、そして、バルナバ、またマルコでしたが、さっそく、困難がやってきました。後半の部分を、読みます。

「13:6 島全体を巡回してパaposまで行ったところ、ある魔術師に出会った。バルイエスという名のユダヤ人で、偽預言者であった。13:7 この男は、地方総督セルギウス・パウルスのもとにいた。この総督は賢明な人で、バルナバとサウロを招いて神の言葉を聞きたいと願った。13:8 ところが、その魔術師エリマ（その名を訳すと、魔術師）は、二人に反対して総督を信仰から遠ざけようとした。13:9 すると、サウロ、別名パウロは、聖霊に満たされ、彼をにらみつけて、13:10 こう言った。「ああ、あらゆる偽りとあらゆる悪事に満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵、おまえは、主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。13:11 見よ、主の御手が今、おまえの上にある。おまえは盲目になって、しばらくの間、日の光を見ることができなくなる。」するとたちまち、かすみと闇が彼をおおったため、彼は手を引いてくれる人を探し回った。13:12 総督はこの出来事を見て、主の教えに驚嘆し、信仰に入った。」

最初に触れましたように、魔術師のバルイエス、あるいはエルマという、パウロら

の宣教の邪魔をする人間と会って、そこで起きたことが語られますが、この最初の困難は、しかし、結果的に、そのキプロス島の、いわば、最高権力者である、ローマ総督を信仰に導くことになりました。

そもそも、このローマ総督セルギウス・パウルスは、異国の地で、評判になっているキリスト教なるものに、キリストの存在とその教えに興味を持っていました。これに危機感を持ったのは、すでに、信仰に心を開かれていた為政者に、おそらく、深く取り入っていたであろう、魔術師が、このままでは、キリスト教が広まってしまうと邪魔をしたのです。パウロは、齒に衣(きぬ)着せず、ストレートに、神のことばを伝えます。

どのようにして彼パウロが、神の声を聞いたのか詳しくは語られていませんが、非常に興味深いのは、パウロ(サウロ)が、キリスト教を迫害する側にいる側から、キリストを伝える側への決定的に変えられた、同じような出来事が、このパウロの口によって告げられ、同じような悔い改めが起きたと言うことです。「**13:11 見よ、主の御手が今、おまえの上にある。おまえは盲目になって、しばらくの間、日の光を見ることができなくなる。**」するとたちまち、かすみと闇が彼をおおった」

パウロもダマスコ途上で、突然の天からの光で視力を失い、手を引かれて、そう、同行者バルナバによって、導かれたように、こんどは、おそらく、神さまから、お前が召されたように、彼は、魔術師、とても救われるべき人間ではないと思われる、いわば、悪魔の手先であるけれど、救われる、そして、主の使命に用いられると告げられ、自分の経験からすぐに信じる事が出来たのかも知れません。実際、予想通りというか、この事を通して素晴らしいことが起きました。これに関心を持って見ていた、キプロス島の最高権力者が救われてクリスチャンとなったのです。キプロスでのことは、それ以上語られないわけですが、為政者が救われたと言うことは、この地で、大きな神の働きがあって、多くの人が救われたことは、容易に想像出来るのであります。

さて、キリスト教の歴史にあって、最初の教会の本格的な異邦人伝道のはじまりについて見てきました。最初に、シン牧師のカリフォルニアでの働きについても少し分かち合わせていただきました。私たちは、パウロの如く、シン牧師の如く、勇気をもって、聖書の福音の言葉を語りたいのです。証をさせていただきたいのです。私たちが、神に信頼し、聖霊の働きを信じて、証の言葉を発するとき、主の助けと働きを確信することが出来るのだと思います。

この週。家庭で学校で会社で、あらゆる場で、信じて、大胆に神様にゆだねて歩み、証の歩みをするものでありたいと願います。